

霜除け (しもよけ)

ワラすぐり作業



ワラの元から10cm程の長さを押し切りで切り落とし1本1本袴を取ります。大量のわらくずが出ます。

擬木の立て込み



ワラの中身が気になる方が多いようですが、園内の剪定で発生した木を立てています。

ワラ巻き



地面に接する部分はワラの元を使い胴体部はワラの穂を下に当て巻いていきます。

巻きおろし



ウラボッチを被せシュロ縄を上から下に巻くため巻きおろしと呼ばれます

ワラの押さえ



節を残した竹串を8本打ちます



シュロ縄を一筆書きでまわします。



石畳 (シュロ縄を四角に編む)

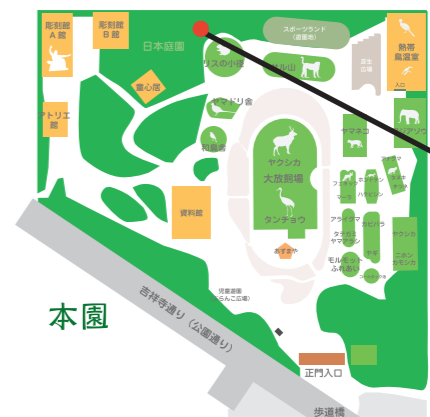
ワラボッチ編み



雪吊りはワラの穂で編む 霜除けはワラの元側で編む
ワラボッチ



霜除けは本来ソテツやデイゴなど寒さに弱い植物を守るために行います。井の頭自然文化園では雪吊りと合わせて冬の風物詩となっています。修景物として作っているため霜除けの中は擬木を入れています。シュロ縄を上から下に巻いていく巻きおろし造りです。雪吊りと霜除けのワラボッチの編み方の違いなども見比べてください。3月上旬(啓蟄前後)までリスの小径出口の向かい、日本庭園でご覧になれます。



日本庭園